

公益社団法人 鉄道貨物協会 本部委員会の審議内容

第5回 利用促進委員会 (2025.10.15)

令和7(2025)年度第5回利用促進委員会は、輸送品質向上委員会との「本部委員会合同企画」として訪問した茨城県小美玉市のカゴメ株式会社茨城工場様(以下、敬称略)で開催した。

「本部委員会合同企画」では、この他、茨城県つくば市の国土技術政策総合研究所を訪問した。

1. 本部委員会合同企画

A. 国土技術政策総合研究所

総務部総務課広報 井出係長よりご挨拶をいただき、続いて動画を用いて国土技術政策研究所の概要と見学内容について説明を受けた。



見学に際しては、広大な敷地に実験施設が配置されているためバスで移動し、主な各セクションの説明を受けた。

(1) 実大トンネル実験施設

延長700m、断面積45.5㎡の世界最大規模のトンネル実験施設を利用して様々な実験を行っており、道路トンネル関連の技術基準への反映や新技術の検証等に活用している。



出典：国土技術政策総合研究所ホームページ
<https://www.nilim.go.jp/japanese/nilim-pr/sisetuinfo/labo/road.html>

(2) 試験走路

総延長6,152m、車線数3車線、北ループ設計速度100km/h、南ループ設計速度120km/h(最大傾斜角27°)の試験走路で、道路の走行性、安全性、路車協調技術等に関する実験を行っており、道路構造令をはじめとする道路関連の技術基準への反映や新技術の検証等に活用している。



(3) 橋梁撤去部材保管施設

全国で実際に使われていた橋の一部を保管している施設で、道路橋の維持管理基準の検討、設計や施工の技術基準の検討のため研究などに活用している。



(4) 建設DX実験フィールド
インフラ分野のDXの取り組みを推進することを目的とした研究施設である。



B. カゴメ(株)茨城工場

最初に、同社茨城工場生産管理課の元西課長からご挨拶と同工場の概要等について説明をしていただき、2班に分かれてチルド棟の見学を実施した。また、同社物流企画部島村課長、森本様、中田様からカゴメサプライチェーンと同工場の物流について説明をしていただき、同工場のバス見学をすることができた。



元西課長

(左から)森本様、中田様、島村課長



C. 利用促進委員会

テーマ「鉄道貨物輸送の集貨・配達区間の課題と積替ステーション活用状況・展望」のヒアリング調査対象企業・ヒアリング項目(案)についての調査方針と、その概要について説明を受けた。



第5回 輸送品質向上委員会 (2025.10.17)

令和7(2025)年度第5回輸送品質向上委員会は、連合会館で開催された。

1. 年間テーマ

「養生機能を施したコンテナの開発・検証Ⅳ
～ 実用化に向けた提言 ～」

A. 第8回実証実験

養生機能を施したコンテナとJRコンテナ1基で、それぞれにW1,100mm×D1,100mmのパレットを6枚積載し実証実験を行った。パレット1枚には袋詰め製品が32袋ずつ積載され、外側はストレッチフィルムが24周巻かれている。JRコンテナには、コンテナと製品の間を埋めるパレットが養生材として使用されている。

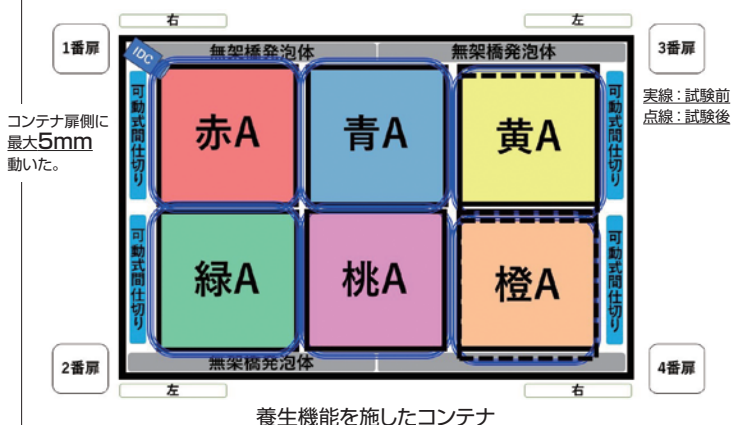
(1) 概要

- a. 調査区間：北海道幌延駅付近～相模貨物駅
- b. 調査期間：2025年8月28日～9月4日
- c. 作業・輸送状況：

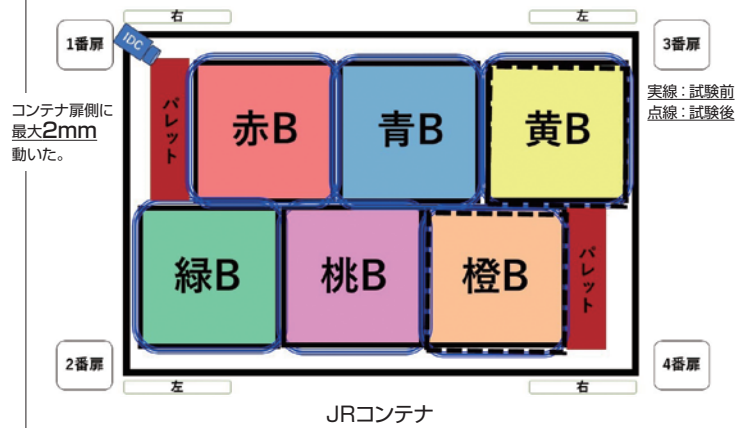
実験準備	8月28日 8:30～10:45頃(幌延駅付近)
構内作業	8月28日 11:44～11:47頃(幌延駅付近)
積載作業	8月29日 6:40～6:44頃(幌延駅付近)
輸送	8月29日 6:45～8:49頃(トラック)
到着日時	8月29日 8:50頃(名寄ORS)
取卸作業	8月29日 8:53頃(名寄ORS)
積載作業	8月29日 9:29頃(名寄ORS)
駅へ移動	8月29日 9:32～11:16頃(トラック)
取卸作業	8月29日 11:23頃
	/11:28頃(確認作業)(北旭川駅)
積載作業	8月29日 14:44頃
	/16:03頃(確認作業)(北旭川駅)
輸送	8月29日 18:28～21:06頃(鉄道輸送)
取卸作業	8月29日 21:32頃
	/21:27頃(確認作業)(札幌(夕))
積載作業	8月30日 10:05頃(札幌(夕))
輸送	8月30日 14:57頃～
	8月31日 13:48頃(鉄道輸送)
取卸作業	8月31日 14:06～14:10頃(東京(夕))
構内作業	8月31日 16:59～17:01頃
	/16:51～17:01頃(確認作業)(東京(夕))
積載作業	9月 1日 8:32頃
	/ 8:37頃(確認作業)(東京(夕))
輸送	9月 1日 11:17～13:09頃(鉄道輸送)
取卸作業	9月 1日 14:00～14:02頃(相模貨物駅)
構内作業	9月 2日 16:58～16:59頃(相模貨物駅)
構内作業	9月 3日 18:54～18:56頃(相模貨物駅)
検証作業	9月 4日 9:05～10:00頃(相模貨物駅)

d. 積載・養生概略図

実証実験時のパレット配置を現状通りに図にしている



実証実験時のパレット配置を現状通りに図にしている



e. パレットのズレ

パレットのズレは養生機能を施したコンテナ及びJRコンテナも一部のパレットのみにしか発生せず、最大でも約5mmであり、軽微であった。軽微のため場所の特定はできなかったものの、何れもコンテナ扉側にズレていることから、フォークリフトの荷役作業によって動いたものと思われる。場所は、JRコンテナは北旭川駅構内若しくは札幌(夕)構内のフォークリフトによる構内作業でIDCがズレてしまうほどの衝撃があったことから、その何れかで動いた可能性が高く、養生機能を施したコンテナにおいても、IDCのズレはなかったものの、上記の構内作業で比較的大きな衝撃があったことから、その何れかで動いた可能性が高いと思われる。

f. 製品のズレ

幌延～名寄ORSまでのトラックによる輸送、札幌(夕)でのフォークリフトによる貨車への積載、道南いさりび鉄道線、青い森鉄道線、IGRいわて銀河鉄道線での貨物列車による輸送、東京(夕)及び相模貨物駅構内でのフォークリフトによる構内作業で特に揺れや振動、衝撃が大きかった。揺れや振動、衝撃が大きかった原因は、路盤や線形などの影響を受けたと思われる。

① 養生機能を施したコンテナ(東京(夕)出発前までの解析)

製品のズレは全てのパレットで発生しており、上から最大で2段目迄であり、黄色Aのパレットのみストレッチフィルムの捲り上がりが発生した。IDCで解析すると、幌延駅付近～北旭川駅間の出発前まではほとんどの製品でズレがなく、北旭川～札幌(夕)間の貨物列車による輸送と、札幌(夕)でのフォークリフトによる構内作業で一部の製品のズレがあった。札幌(夕)～東京(夕)間(東京(夕)でのフォークリフトによる構内作業3回を含む)ではほぼ全ての製品でズレが発生していた。

② JRコンテナ(東京(夕)出発前までの解析)

製品のズレは全てのパレットで発生しており、上から最大で7段目迄であった。また全てのパレットでストレッチフィルムの捲り上がりが発生した。IDCで解析すると、幌延駅～名寄ORSのトラック輸送でほとんどの製品(カメラで視認できるもののみ)とIDCのバッテリーの一部にズレが発生した。その後、北旭川駅構内と札幌(夕)構内のフォークリフトによる荷役作業ではIDCがズレてしまうほどの衝撃、ズレが発生し、札幌(夕)～東京(夕)間の貨物列車による輸送でもズレが発生した。さらに、東京(夕)構内及び相模貨物駅構内でのフォークリフトによる構内作業でズレが発生した。